

小麦の赤かび病防除を徹底しましょう！

令和4（2022）年5月30日

安足農業振興事務所

1 赤かび病と今後の気象

赤かび病の感染適期は開花期～乳熟期頃（4月末～5月中旬頃）に雨が多く、気温が比較的高く（20～27℃）経過すると激発する傾向があります。今年は4月下旬以降周期的に降雨が続き、発生に適した気象条件で経過しています。

気象庁の1ヶ月予報（5月26日発表）によると、向こう1ヶ月の平均気温は平年並または高い、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ないという予想が出されています。

現在、小麦は登熟期です。収穫期までに曇雨天が多くなると、急激に赤かび病が多発するおそれがあります。赤かび病の防除を徹底するため、追加防除を行いましょう。



写真 赤かび病に感染した小麦粒



赤かび病は、減収や品質低下をもたらすだけでなく、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生します。そのため、農産物検査法に基づく農産物規格規程において、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が0.0%を超えないこと、と定められています。

表 赤かび病に登録のある主な薬剤

薬剤名	作物名	希釈倍率 (散布液量)	収穫前日数 /本剤の使用回数	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	小麦	2000倍 (60～150L/10a)	7日前まで/2回以内	3
ワークアップフロアブル	麦類	2000～3000倍 (60～150L/10a)	7日前まで/3回以内	
チルト乳剤25	小麦	1000～2000倍 (60～150L/10a)	3日前まで/3回以内	7
ミラビスフロアブル	小麦	1500～2000倍 (50～150L/10a)	7日前まで/2回以内	

注1) 登録内容は、令和4（2022）年5月24日時点

注2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一の薬剤の連用は避ける

注3) 散布の際は収穫前日数を必ず確認する

2 収穫・乾燥時の注意点

収穫前に赤かび病の発生状況を確認しましょう。立毛中に発生が確認された麦や、発生ほ場で倒伏している部分がかび毒汚染の可能性が高くなります。そのようなところは刈り分けを行い、健全な麦に混入させないようにしましょう。

刈り遅れは発芽粒など品質低下の要因になるだけでなく、かび毒産生の要因になります。適期に収穫しましょう。

収穫後、高水分のまま放置すると貯蔵中に赤かび病菌が増殖します。収穫したら速やかに乾燥作業に移行しましょう。

共同乾燥施設においては、荷受時に赤かび粒のチェックを行い、混入がみられた場合は別仕分けを行うなど健全な麦と混合しないように十分注意してください。

農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法をきちんと守りましょう

4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

乗用型トラクターの事故が最も多く発生しています！以下のことを心がけましょう。



- 安全キャブ・フレームのある機種を使用する
- シートベルトとヘルメットを着用する
- ほ場を出る際は、ブレーキの連結ロックを確認する
- 日没前の作業終了と、一般道走行に備え反射材を装着、点検する

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431
ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>